



私の太陽

簡 雪 梅
JIAN XUEMEI

誰もが人生において、一度は挫折を経験します。しかし、どんなに寒く辛い冬であっても、必ず、暖かく明るい日差しがあります。春が訪れます。

私は介護の技能実習生として、昨年7月1日入国し、1か月の集合講習を経て介護施設メープルウェルフェアサービスのグループホームで実習を受けています。初めは日本語が下手だったので、簡単な日本語でも伝わらず悩みました。しかし、指導員の方や同じ職員の方が一生懸命に手助けをし、指導いただいたおかげで、入居者の方々とコミュニケーションもどうにか出来るようになりました。

母国で勉強した時には、日本語には地方で使われる方言があることを話には聞いていましたが、こんなに違うものとは思いませんでした。例えば、「ぬくい・ぬきい」=熱い、「よだきい・のさん」=疲れた、やりたくない等。私の努力が足りないと思いついて悩んでいましたけれども、指導員の方々と周囲の日本人の方々のおかげで一筋の暖かな光が見えてきたように思えます。そして、積極的に入居者と向き合うことができるようになりました。

ある日のこと、社長さんが施設を見て回られる時に、一生懸命に入居者さんと接している私に声をかけられたのですが、以前からいる日本人の介護職員と間違われたようで、介護実習生としての私の進歩に驚かされていました。

ただ、私は介護技能実習生として、日本で第

1号となったこともあり、マスコミ等から取材を受けたので、初めは戸惑いました。なぜなら注目されるために来日したのではなく、日本の介護の技術を学習し、母国に持ち帰り広めるために来日したからです。そして、注目された分、完璧に出来なければと焦ってしまい暗く悩むこともありました。

そんな時、日本に留学している息子と娘から励ましのメールが届きました。また社長一家、指導員の方々、組合のフォローもあり暗闇にいる私をまた太陽の光が照らしてくれたのです。

介護の仕事は大変だと思いますが、周りの人々の支えと教えがあることで、前に前に進む自身が生まれました。そんな中、ある出来事がありました。一番仲良くしていた入居者の方が突然亡くなられたとの知らせを受けました。順風満帆な日々を送っていた私にはショックでした。悲しくて介護する気力もなくなりました。しかし、指導員の方の暖かい言葉で気を取り直すことができました。

様々な経験をすることがありますが、私の周りには暖かな太陽が輝いています。これも一生懸命介護に励んでいるおかげだと思います。日本に来てまだ1年目ですが、あと2年、いやあと4年介護の知識を勉強し、頑張っていきます。私の夢は、日本で介護福祉士の資格を取って、母国の中国にその技術を持ち帰り、中国の介護に暖かな陽かりを照らしたいということです。